

西ノ島町
まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成27年12月

西ノ島町



目次

第1章 総合戦略とは	1
1-1. 総合戦略とは	1
1-2. 戦略の位置づけ	1
1-3. 戦略の対象期間	1
1-4. 策定にあたっての基本原則	2
1-5. 戦略の推進体制	3
第2章 基本構想	4
2-1. 戦略で目指す姿	4
2-2. 基本目標	5
1) 基本目標1:西ノ島町への新しい人の流れをつくる(移住・定住)	5
2) 基本目標2:西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する(産業・雇用)	5
3) 基本目標3:結婚・出産・子育ての希望を叶える(結婚・子育て)	5
2-3. 戦略体系	6
第3章 具体的な施策	7
3-1. 西ノ島町への新しい人の流れをつくる(移住・定住)	7
1) 情報発信と交流機会の充実	7
2) 定住希望者の受け入れ体制の整備	8
3) 住みよい住環境の整備	8
3-2. 西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する(産業・雇用)	9
1) 漁業・農業・観光の振興	9
2) 産業の担い手確保と人材育成	11
3) その他の雇用対策	12
4) 企業誘致と新規産業の創出支援	12
3-3. 結婚・出産・子育ての希望を叶える(結婚・子育て)	13
1) 結婚・子育てに対する前向きな感情の喚起	13
2) 出産・子育ての支援充実	14
近年の情勢を踏まえた新たな取り組みについて	15

第1章 総合戦略とは

1-1. 総合戦略とは

総合戦略とは、西ノ島町が人口減少に立ち向かうために定めるこれからの行動指針で、将来の人口状況を見越したうえで、直近5年間に取り組むべきことを整理したものです。

本戦略は、人口減少克服と地方創生による、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的として施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて策定するもので、地域特性に応じた効果的な対策の推進に向け、すべての都道府県及び市町村はその策定に努めることとされており、戦略に基づく取組の実行に関しては、新型交付金等、国からの財政支援が予定されています。

1-2. 戦略の位置づけ

西ノ島町では、まちづくりの最上位計画である第5次西ノ島町総合振興計画『人の集う島へ！』（平成25年3月）において、平成34年目標人口3,000人の実現に向け、「資源を活かして働く」「助け合い健やかに暮らす」「自然とともに暮らす」の3つの方策を中心に、付随する16の基幹プロジェクトを掲げました。

本戦略は、この総合振興計画を基礎としつつ、人口減少対策に特化する形で施策の拡充を図っていることから、総合振興計画の下位に位置づけられます。

1-3. 戦略の対象期間

平成27年度を初年度とし、平成31年度を目標年とする5年間です。

1-4. 策定にあたっての基本原則

策定にあたっては、国の総合戦略同様、以下の基本原則に基づいて施策立案を行いました。

① 自立性

西ノ島町における課題に対処する各施策を、官民連携のもとで継続的に推進し、西ノ島町の自立を目指します。

② 将来性

目指す将来像や人口の将来展望を踏まえ、自主的かつ主体的、前向きに取り組んでいきます。

③ 地域性

客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、西ノ島町の実態に合った総合戦略を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備します。

④ 直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の効果を上げるため、町民や民間企業等との連携による、ひとの移動、しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施します。

⑤ 結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、3つの基本目標ごとに具体的な数値目標を設定し、その施策の効果を客観的な指標(KPI)により検証し、必要な改善等を行っていきます。

1-5. 戦略の推進体制

総合戦略においては、重要業績評価指標 (KPI:Key Performance Indicators)を重要視しています。KPIは、総合戦略における各種施策の進捗状況を客観的に検証できるようにする指標のことで、行政活動そのものの結果(例:転入者を増やすためのセミナーを10回開催する)ではなく、その結果として住民にもたらされた便益(例:転入者を5年間で〇人増やす)といった形で設定することが求められます。

本総合戦略においては、対象期間末にあたる平成31年時点での公表値をもとにした達成状況を示すKPIを設定します。こうして設定されたKPIに対し、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するといったPDCAサイクルを回していくことで、総合戦略で描いた将来像の実現を図ります。

PDCAサイクルはPlan-Do-Check-Actionの略称で、Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のことをさします。

① 計画(Plan)

総合戦略は、行政及び町民から構成する「総合戦略策定検討チーム」において、取り組むべき施策やその優先順位・方向性等について検討を進めました。

② 実施(Do)

策定した総合戦略については、幅広く情報発信するとともに、各分野において関連する町民、企業、行政等で協働し推進します。また、選択と集中を行うことで、実効性を確保し推進力を高めます。

③ 点検・評価(Check)

各施策の実施状況及び成果については、計画で定めた重要業績評価指標(KPI)を基に毎年度、点検・評価を行うとともに、推進会議による効果の検証を行います。点検・評価、効果の検証結果については、町民に公表し、共に評価を実施します。

④ 見直し・改善(Action)

毎年度実施する点検・評価及び効果の検証結果を踏まえ、施策の見直し、必要に応じて総合戦略の改訂を行います。

第2章 基本構想

2-1. 戦略で目指す姿

人の集う島へ ～暮らしを彩るまち・ひと・しごとの循環～

美しい自然がもたらす雄大な景観、食べ物、文化。小さな島だからこそ顔の見える安心感。やることは違えど、西ノ島町を良くするために頑張るたくさんの人々。

平成 25 年に策定した第 5 次西ノ島町総合振興計画では、これら豊かな自然資源と人的資源によって紡がれる暮らしこそが西ノ島町の魅力であり、その魅力を活かして人口減少に立ち向かい、「人の集う島」を目指していくことを示しました。

総合振興計画の策定から2年が経過した今、改めて西ノ島町の状況を振り返ってみると、人口は引き続き減少傾向にあり、進学・就職を理由とした若者世代の流出、未婚率の上昇が続いています。このまま推移すれば、2035年に総人口は2,000人を切り、2060年には1,000人にまで減少すると予想されています。

その一方で、音楽、祭り、スポーツ、食、アート等、島の自然資源を活かした様々なまちづくりの取り組みは増加の兆しを見せています。これらは、このまちでしか体験できないコンテンツとして、町外の人々の関心を惹きつけるとともに、新しい仲間との出会いや人とのつながりを構築するきっかけとなっています。また、この島に暮らす私たちにとっても、日々の生活に彩りと豊かさをもたらしてくれる機会となっています。

町内外の交流活性化と島暮らしの多彩化をもたらすこれらの取り組みを、今後は仕事にもつなげていくことで、多様な働く場の創造、暮らす楽しみの多様化、交流人口の拡大、定住者の増加といった良い循環が生まれ、「人の集う島」の実現、ひいては人口減少の克服に近づくと考えます。

これらを踏まえ、戦略で目指す姿には「人の集う島へ ～暮らしを彩るまち・ひと・しごとの循環～」を掲げます。

2-2. 基本目標

戦略で目指す姿「人の集う島へ ～暮らしを彩るまち・ひと・しごとの循環～」の実現に向け、以下3つの基本目標を定めました。

1) 基本目標1:西ノ島町への新しい人の流れをつくる(移住・定住)

戦略で目指す姿「人の集う島へ ～暮らしを彩るまち・ひと・しごとの循環～」の実現に向けては、まずは西ノ島町が持つ魅力を外部に発信して関心を高め、訪問する人を増やしていくことが求められます。このことを踏まえ、第1の基本目標には『西ノ島町への新しい人の流れをつくる』を定めました。

<目標>

〔 総人口 2,690 人(H31 年) 〕

2) 基本目標2:西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する(産業・雇用)

基本目標1の実現に向けた取り組みにより新しい人の流れが生まれても、その人が西ノ島町で働く場所が見つからなければ定住には繋がりません。特に離島である西ノ島町は、働く場を他の自治体に求めることが難しい状況にあります。このことを踏まえ、第2の基本目標には『西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する』を定めました。

<目標>

〔 雇用創出数 64 人 (H27 年度～H31 年度) 〕

3) 基本目標3:結婚・出産・子育ての希望を叶える(結婚・子育て)

移住・定住政策、産業・雇用政策による子育て世代の確保は、目指す姿の実現に向けた重要な取り組みですが、全国的な人口減少と人材確保競争の激化が予想される中、人口確保策は長期的には転入増加から出生増加へシフトしていくことが求められます。このことを踏まえ、第3の目標には『結婚・出産・子育ての希望を叶える』を定めました。

<目標>

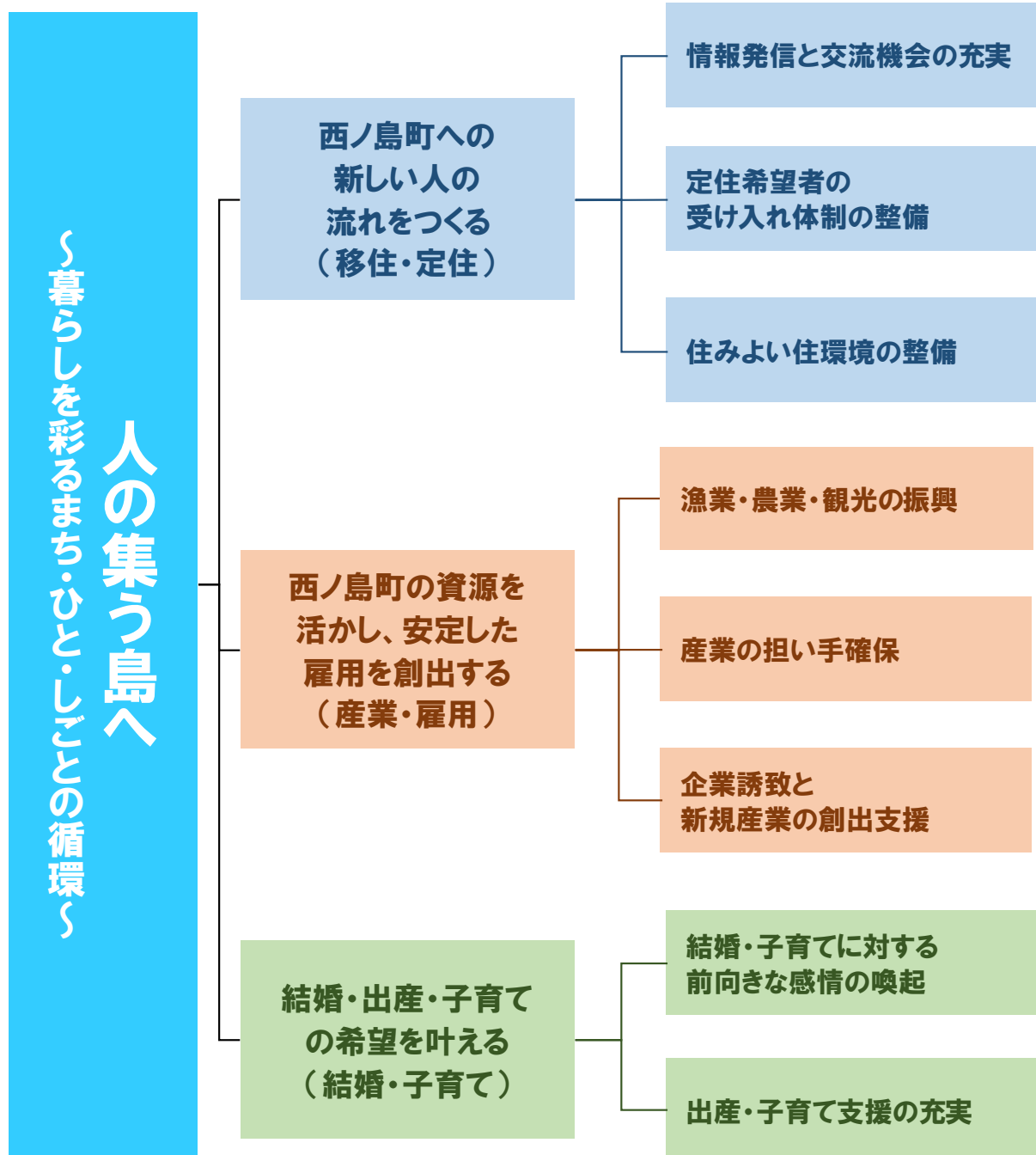
〔 合計特殊出生率 1.74 (H31 年) 〕

2-3. 戦略体系

<戦略で目指す姿>

<基本目標>

<推進施策>



近年の情勢を踏まえた新たな取り組み

第3章 具体的な施策

3-1. 西ノ島町への新しい人の流れをつくる(移住・定住)

<基本目標の実現に向けた基本的方向性>

積極的な情報発信を行うことで、他地域の人々との交流を活性化します。また、これらの活動を通して西ノ島町の魅力に関心を持った人に対しては、受け入れ前後の相談・支援体制を強化するとともに、住居整備を進めることで、移住・定住に結び付けていきます。

<推進施策>

1) 情報発信と交流機会の充実

● 積極的な情報発信の推進

- ・ 多様なまちづくり活動の取り組みや、島での仕事・暮らし、医療、教育環境等について、取材等を通じた情報収集に努めるとともに、パンフレットや HP 等、多様な手段を用いて積極的に外部へ発信し、西ノ島町に対する外部からの関心を惹きつけていきます。
- ・ 観光、ビジネス、転勤等、何らかの形で西ノ島町と関わった人と、その後も関わりが持てるような情報発信に取り組みます。
- ・ 役場ホームページをスマートフォン等にも対応できるよう改修するとともに、定住・雇用・子育て支援に関する情報発信を強化します。

● 体験・交流の推進

- ・ 定住体験ツアーや職場体験ツアー等を企画・運営し、西ノ島町での暮らしをより詳しく知ってもらう機会の充実に取り組みます。
- ・ 移住後のミスマッチを減らすため、短～中期の島暮らしを体験できる滞在施設の整備を進めます。
- ・ 町内で開催されるイベントのスタッフ等を本土からも募集し、共に運営にあたっていくことで、双方の交流を促進します。
- ・ 小中学生を対象とした離島留学等、教育を通じた交流促進を図ります。
- ・ 国際交流員等を増やし、多文化に触れる機会の拡大を図ります。

<KPI>

指標名	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
情報発信件数	27件	60件

2) 定住希望者の受け入れ体制の整備

● 受入体制の整備

- ・ 定住希望者が安心して移住できるよう、島根県が整備する「くらしまねっと」との連携も含め、定住希望者に対する情報提供や相談窓口、地域とのつなぎ役を行う体制づくりを進めます。
- ・ 西ノ島町への移住に関心を持つ人の情報登録を進め、詳細な定住情報の発信や、メール相談等を通じたニーズ把握に取り組みます。
- ・ 空き家改修や空き家への入居促進等について、地域が主体となって行う取り組みを支援します。
- ・ 移住者に対する聞き取り調査を実施し、ニーズ把握を進めるとともに、それらを踏まえたフォロー体制の構築に取り組みます。

<KPI>

指標名	現状値 H26 年度)	目標値(H31 年度)
UIターン者数	59 人	85 人

3) 住みよい住環境の整備

● 住居整備の推進

- ・ 増える空き家の有効活用と効率的な住居整備にむけ、空き家調査を実施し、そのデータベースを構築します。この際、危険家屋の判定も行い、必要に応じて所有者に解体処分等の指導を行います。
- ・ 空き家バンク制度を運用し、空き家を活用したい人と貸したい・売りたい人との円滑なマッチング支援を行います。
- ・ 定住助成や持ち家の取得及び同居用増改築に対する支援制度の創設に取り組みます。
- ・ 環境やライフスタイルに配慮した快適な住宅整備に取り組みます。

● 移動環境の改善

- ・ 町民の移動、物流の根幹となる隠岐航路の運賃について、関係機関と連携して低廉化に取り組みます。
- ・ 内航船や買い物支援バス等の島内・島間移動手段の維持、利便性向上に取り組みます。

<KPI>

指標名	現状値(H26 年度)	目標値(H31 年度)
空き家の活用・新規住宅着工件数	4 件	10 件

3-2. 西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する(産業・雇用)

<基本目標の実現に向けた基本的方向性>

西ノ島町の基幹産業である漁業・農業・観光の活性化により、雇用規模の拡大を図るとともに、担い手確保に向けた支援策の充実を通して、安定した雇用の創造につなげていきます。

<推進施策>

1) 漁業・農業・観光の振興

● 漁業の基盤整備

- ・ 漁業者の負担軽減と地域経済の活性化を図るため、大型漁船等の建造、修繕に対応できる体制づくりに取り組みます。
- ・ 巻き網船団の維持及び雇用増加を図るため、官民の連携による運搬船建造に向け取り組みます。
- ・ 漁業の経営安定化に向け、漁船建造に伴う支援を行います。
- ・ 漁業資源を適正管理するため、藻場や漁礁等、漁場環境の整備に取り組みます。

● 畜産の基盤整備

- ・ 本町畜産業の特色である低コスト・省労力経営の効果を最大限に活かすため、未利用牧の活用や放牧地及び管理道の整備を進めます。
- ・ 牛の取引円滑化に向け、家畜市場・集畜場の整備を進めます。
- ・ 牧野維持と良好な景観の形成に必要な馬の頭数確保に取り組みます。
- ・ 子牛の効率的な育成管理を進めるため、キャトルステーションの整備等、新技術を活用した管理手法の改善を進めます。

● 食の魅力化と地産地消の推進

- ・ 地元食材の安定確保と新たなメニュー開発により、食の充実を図ります。
- ・ 海藻類加工場の整備により新たな雇用創出につなげるとともに、加工品の知名度向上のため企業との連携に取り組みます。
- ・ 6次産業化の推進に向け、水産物加工場の整備に取り組むとともに、関係機関の連携を図ります。
- ・ 冷凍保存設備(プロトン等)を拡充し、水産資源等を活かした新たな商品開発と、地産地消や海外展開を含めた販路拡大に取り組みます。
- ・ 岩がき養殖について、養殖技術や品質改善により、「隠岐のいわがき」の流通量の確保を図ります。

● 観光の基盤整備

- ・ 重複あるいは老朽化した看板の撤去、看板デザインの統一等、分かりやすい看板の配置に取り組みます。
- ・ 飲食メニューや公共交通案内(時刻表、行先、乗り方等)の多国語表記を進めます。
- ・ 観光施設や宿泊施設における無料 Wi-Fi スポットの充実を図ります。
- ・ ゲストハウスや民泊等、安価で宿泊することができ、旅行者にとっても受け入れ側にとっても負担の少ない宿泊機能の強化を図ります。
- ・ 老朽化した宿泊施設の改修や設備投資に対する支援を行います。
- ・ 観光客のニーズに応えるため、レンタカーの増台、クレジット対応型店舗に向けた支援を行います。
- ・ 宿泊、観光、交通関係者の英会話力向上を支援します。

● 『体験・交流』を核とする観光プログラムの充実

- ・ 滞在時間や宿泊日数の延長に向け、摩天崖へのハイキングツアー等、身体全体で隠岐の自然を体感できる観光プログラムの充実に取り組みます。
- ・ 西ノ島町を訪れた海外観光客との交流が深められるよう、町内イベント(祭りや英会話講座等)への参加を促すほか、小中学校と連携して授業や部活、ホームルーム、給食等の場を活用した交流機会の創出を検討します。
- ・ 音楽、祭り、スポーツ、食、アート等、島の自然資源を活かした取り組みを官民協働で進めます。

● 国内外への情報発信

- ・ 英語版の西ノ島町ウェブサイトの整備を進めます。
- ・ ロコミを主体とするウェブサイト(例:トリップアドバイザー、Facebook 等)の活用を進めます。
- ・ ジオパークを題材とするテレビ番組や雑誌の取材誘致を働きかけます。
- ・ 隠岐4島や、隠岐入りの起点となる松江市、境港市等との連携を強化し、誘客を促します。
- ・ 西ノ島町の自然やジオパークをテーマとした修学旅行、合宿の誘致に取り組みます。
- ・ 西ノ島町へ寄港する国内外のクルーズ船の誘致に取り組みます。

<KPI>

指標名	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
漁獲生産高	2,607 百万円	2,641 百万円
繁殖雌牛の飼養頭数	591 頭	620 頭

指標名	現状値(H26年)	目標値(H31年)
観光客の入込客数	52,677 人	63,000 人

2) 産業の担い手確保と人材育成

● 就業研修と技術伝承の充実

- ・ 漁業や農業、観光業、商工業等の新規就業を促すため、就業体験制度、研修受け入れ先の確保に取り組むほか、就業に係る相談体制の充実、移住に係る経費の助成等を行います。
- ・ 年間の漁業・農業就業モデルを構築し、その普及に取り組みます。
- ・ 引退した農家や漁師と若手就業者のマッチングにより、技術継承していく仕組みを推進します。
- ・ 海外からの技能実習生の受入れを支援します。

● 就業者への支援の充実

- ・ 新規就業者に対する初期投資支援の充実を図ります。
- ・ 就業後一定期間の所得補償等を行います。
- ・ 畜産農家の経営安定化に向け、町有牛貸付制度の見直しを進めるとともに、作業支援を行うヘルパー・サポート制度を創設します。
- ・ 戦略産品の海上輸送にかかる経費の助成を行います。

● 人材確保とマッチング支援

- ・ 農業の担い手確保に向けて、JAや畜産農家と連携し農業大学校等との関係づくりに取り組みます。
- ・ 人手や後継者が不足している事業所と就労を希望する人のマッチングを行う人材活用の仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 夏休み中の大学生等、住み込み型のアルバイトを誘致し、人手の確保と将来的な定住促進へとつなげます。
- ・ 町内の産業について、就業体験を含む小中学校の9年間を通じた継続的な学習プログラムを構築、実施し、小中学生の地元就業に対する意識啓発を図ります。

<KPI>

指標名	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
就業体験受け入れ数	20人	35人
漁業・農業の新規就業支援者数	14人	20人

3) その他の雇用対策

- ・ 町内の福祉事業所で福祉業務に従事する人に対して、就業一時金や引っ越し費用等の支援を行い、その確保を図ります。
- ・ 地元就労者に対して、就労祝い金を支給します。
- ・ 町内の医療・福祉事業所等と連携し、大学や専門学校等との関係づくりに取り組みます。

4) 企業誘致と新規産業の創出支援

- ・ 西ノ島町のゆったりとした環境と親和性の高いソフトビジネス産業(IT、コンサル、デザイン等)の誘致を図るため、これら業種のニーズに適合した基盤整備、助成制度の充実を図ります。
- ・ 産業振興奨励事業の継続・拡充を通して、地域資源や文化、空き店舗等を活かした新規産業の創出に取り組む人をハード・ソフト両面から支援します。
- ・ 半漁半 X、半農半 X 等、これまでの慣習にとらわれない仕事や働き方に挑戦する人への支援を行います。

<KPI>

指標名	現状値(H26年度)	目標値(H27~H31年度)
新たに町外から進出した企業数	—	3社
産業振興奨励事業の採択による雇用増加人数	—	10人

3-3. 結婚・出産・子育ての希望を叶える(結婚・子育て)

<基本目標の実現に向けた基本的方向性>

現在の子育て支援策の継続と合わせ、出会い・結婚支援等に取り組むことで、合計特殊出生率低下の主要因である未婚率の改善を図り、出生者数の増加につなげていきます。

<推進施策>

1) 結婚・子育てに対する前向きな感情の喚起

● 結婚に対する意識啓発

- ・ 結婚に対する前向きな感情を幼少期から育んでいくため、小中高校生や新成人を対象に、結婚や子育ての魅力を伝える講習会等を実施します。
- ・ 子育てに奮闘する母親や父親、祖父母等を取材し、広報やホームページ等で紹介することで、子育てを応援する町としてのイメージを構築していきます。

● 男女の出会いを応援する空気の醸成

- ・ 男女の出会いが交際、結婚へとつながっていくよう、より多くの人キューピット役となって応援していく体制づくりを進めます。
- ・ 出会い創出イベントやセミナー、交流会等地域における様々な出会いの場を創出します。
- ・ 結婚推進室等を設け、行政による主体的な結婚支援の取り組み強化を図ります。

<KPI>

指標名	現状値(H26 年度)	目標値(H31 年度)
小中高校生や新成人を対象とした結婚・子育てに関する講習会の実施回数	2 回	5 回
出会い創出イベント等の開催回数	—	5 回

指標名	現状値(H26 年度)	目標値(H27~H31 年度)
キューピット役の登録者数	—	20 名

2) 出産・子育ての支援充実

● 出産支援体制の充実

- ・ 離島ゆえの経済負担を軽減するため、出産にかかる支援の充実を図ります。
- ・ 不妊治療に取り組む夫婦に対する経済的支援を行います。
- ・ 産前産後期における家事サービス制度の創設に取り組むほか、当該時期における父親の休暇取得促進を図ります。

● 子育て支援体制の充実

- ・ ひとり親世帯やIターン者等、身近に支援者がいない子育て世帯も多いことから、地域で子育て世帯を支える体制を強化するため、子育てサポーターの育成等に取り組みます。
- ・ 図書館や公園等、世代間交流の活性化にもつながる場所の整備や機会の充実を図ります。
- ・ 子育て世帯と地域のつながりを深めるため、子育て世帯の一軒家居住を推進します。
- ・ 中学生までの児童・生徒に要する医療費の無料化を行うほか、町外への通院等に係る交通費・宿泊費を助成します。
- ・ 離島ゆえの経済的負担を軽減するため、県大会等への出場経費助成、大学等進学者への入学祝い金を支給します。
- ・ 病気または病気の回復期にある児童について、隠岐島前病院における病児・病後児保育サービスを行います。
- ・ 保育料の負担軽減を図ります。

<KPI>

指標名	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
子育て支援に対する満足度	—	50.0%

近年の情勢を踏まえた新たな取り組みについて

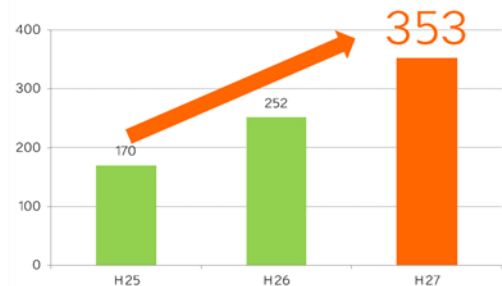
インバウンド(海外観光客)に対応するまちづくりの推進

世界ジオパークへの認定、ブルーガイド(※)での三ツ星認定等、隠岐に対する世界からの関心が急速に高まる中、いち早く看板のバイリンガル表記等を進めてきた西ノ島町は、海外からの観光客数(インバウンド)がこの3年で2倍に増加しています。

インバウンドの増加は、観光産業の活性化・雇用拡大はもとより、島民や子どもたちの国際交流機会の創出、「国際交流ができる秘境」というイメージ構築による移住希望者の増大等、教育や定住人口拡大に繋がる可能性も秘めています。

西ノ島町はインバウンドに対応するまちづくりを推進し、観光を起爆剤とする産業・雇用の活性化を促し、『人の集う島』の早期実現、ひいては人口の安定化へとつなげていきます。

総観光客数は3年間で2割減のなか、海外からの年間観光客数は3年間で2倍



※ブルーガイド
1826年に創業したフランス出版大手アシェット社が発行している格付け観光ガイドブックのこと。2015年2月に日本版が改訂され、隠岐が最高ランクの3つ星を獲得しました。

STEP①:『体験・交流』を通じた西ノ島コンテンツの充実

隠岐が世界の関心を惹きつけているのは、雄大な自然と、そこに寄り添って生きる隠岐の人々の営みにあります。このため、インバウンドに対応するまちづくりを進めるにあたっては、『体験・交流』を通じた西ノ島コンテンツの充実を図ります。

- <主な取り組み>
- ・ 体感型の観光プログラム
 - ・ 地域や学校と連携した交流の創出等



STEP②:西ノ島らしい受け入れ基盤の整備

やみくもに国際化を進めれば、本来の隠岐の魅力が失われる恐れもあります。このため、西ノ島らしさを活かした観光基盤の整備にも取り組みます。

- <主な取り組み>
- ・ 看板、案内版の整備
 - ・ wi fi スポット 整備
 - ・ ゲストハウス、民泊の整備
 - ・ 英会話研修、ガイド研修 等



STEP③:国内外への情報発信

これらのコンテンツを含めた積極的な国内外への情報発信により、より多くの関心を惹きつけ、「隠岐に行きたい」を喚起します。

- <主な取り組み>
- ・ 英語版ウェブサイト
 - ・ プレスツアー、メディアツアー
 - ・ ジオパークを活かしたTV番組 等



観光を軸とした産業振興
秘境でありながら世界と繋がることのできる新たな価値の創造
新たな価値がもたらす交流の加速化